

News Release



焼津水産化学工業株式会社

上場会社名	焼津水産化学工業株式会社
代表者名	代表取締役社長 坂井和男
コード番号	2812
上場取引場所	東証1部
本社所在地	静岡県焼津市小川新町5丁目8番13号
静岡本部	静岡県静岡市駿河区南町11-1-6F
	TEL:054-202-6030 FAX:054-202-6031

「女性の肌に関する意識調査」の結果がまとまりました

— 国内の女性1,000人を対象に5月に実施 —

<明らかになった主なポイント>

- ① 女性の8割近くが肌の乾燥を気にしている
- ② ドライシンドロームに悩む女性が多く、気になるところは「顔の肌」80.8%、「目」38.8%、「口」13%
- ③ 化粧品の乾燥対策に満足しない女性は36.5%
- ④ 女性が最も理想とする肌は、「うるおい肌(ツヤ)」が81.6%でトップ

焼津水産化学工業株式会社（本社：静岡県焼津市、代表取締役社長：坂井和男、東証1部）は、今年5月、国内の女性1,000人（20歳代～50歳代）を対象に「肌に関する意識調査」（インターネット調査）を実施しました。

最近、肌や口、目などが乾く全身の乾燥症状「ドライシンドローム」を訴える人が増加しています。特に肌の乾燥に悩む人が多いといわれていますが、これまでその実態は、しっかりつかめていませんでした。そこで、当社は、女性の肌の乾燥に関する思いを知ろうと、今回の意識調査となりました。

当社は、肌の保湿効果で注目されている「N-アセチルグルコサミン」を製造する食品素材メーカーですが、自社の製品との関係から女性の肌への意識をデータ化してみようという試みになったものです。

その結果、次のような興味深い結果が浮き彫りになりましたので、別紙の通り資料提供させていただきます。

なお当社は、これらの調査の結果や肌乾燥の疾患に関する情報などを発信するため、6月1日から東京に「ドライスキン広報センター」を設立して情報提供を開始しました。

<ニュースリリースに関するお問い合わせ>

焼津水産化学工業株式会社 担当 山田／前田／砂賀

TEL：03（5204）0361／FAX：03（5204）0364

山田携帯 090 - 4719 - 0163

《参考資料》

ドライスキン広報センター：焼津水産化学工業株式会社が6月1日に、東京都渋谷区2-12-19株式会社プラップジャパン（TEL：03-3486-2673）内に設置。スキンケアクリニック医師、大学研究者などを顧問に迎え、5企業（サッポロエージェンシー、日本ミルクコミュニティ、ビーンスターク・スノー、UMI ウェルネス、雪印乳業）の協力を得て、肌乾燥の情報発信、N-アセチルグルコサミンなどの研究情報提供等を行う。

「女性の肌に関する意識調査」の概要

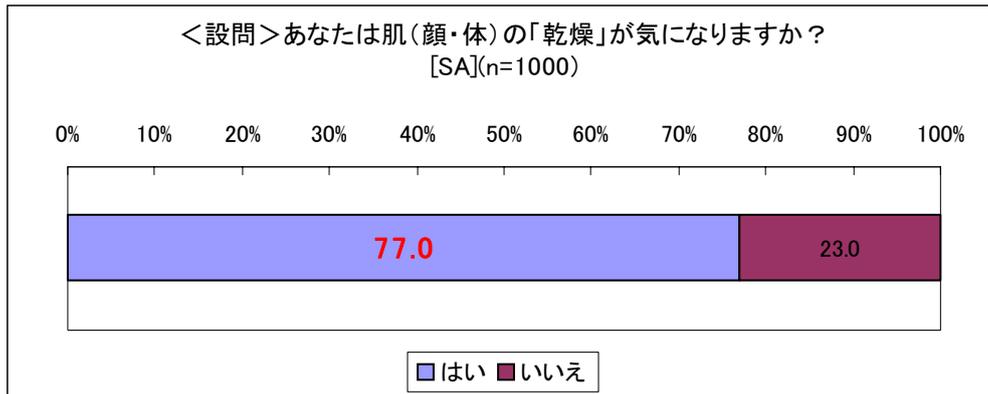
①女性の8割近くが肌の乾燥を気にしている

年齢に関係なく“乾燥”は女性にとっての悩み!

⇒<基礎データ①参照>

「肌(顔・体)の乾燥が気になりますか?」の質問に対して、全体の77%の女性が「顔と体の肌の乾燥が気になる」と答えており、かなり深刻な実態が明らかになりました(図A参照)。また、乾燥が気になる女性770人を年代別に見ると、20歳代、30歳代、40歳代の80%以上が乾燥を気にしており、「乾燥」は年齢に関係なく女性にとっての悩みであることがわかりました。

[図A]



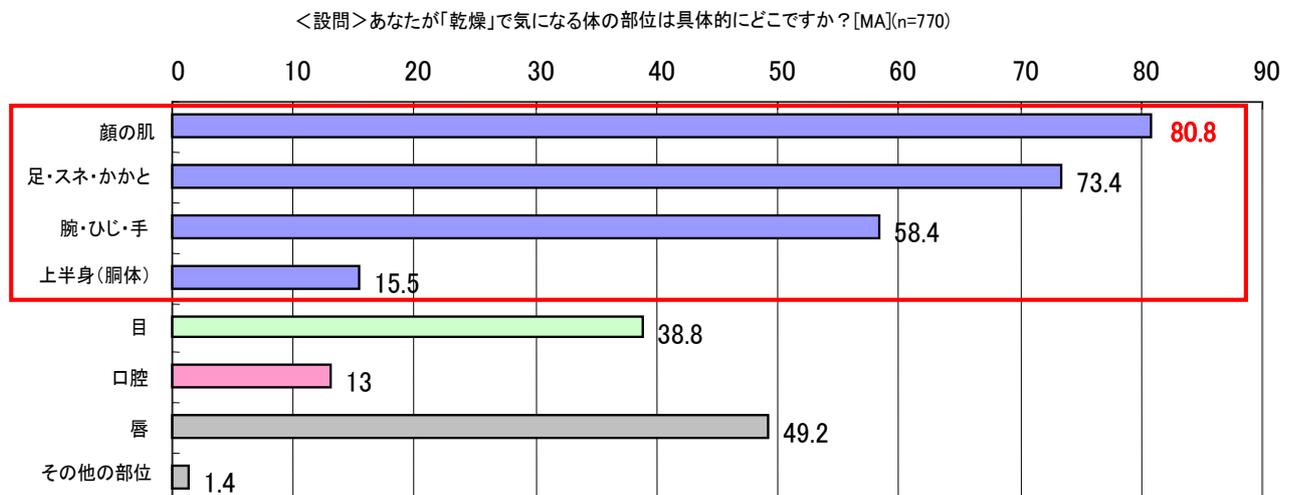
②全身の乾燥症状「ドライシンドローム」に悩む女性が多い

⇒<基礎データ②参照>

ドライシンドロームの内容は、「顔の肌」80.8%、「目」38.8%、「口」13%

最近、肌や目や口が乾く全身の乾燥症状「ドライシンドローム」に悩む人が多いと言われています。今回の調査は、これを確かめるために乾燥が気になる体の部位について調べました(複数回答)。その結果、顔や体の肌の乾燥が気になる人が特に多く、肌の中では「顔の肌」80.8%でした。「目」は38.8%、「口」は13%で、いわゆるドライシンドロームに悩む人が多いことが確かめられました(図B参照)。

[図B]



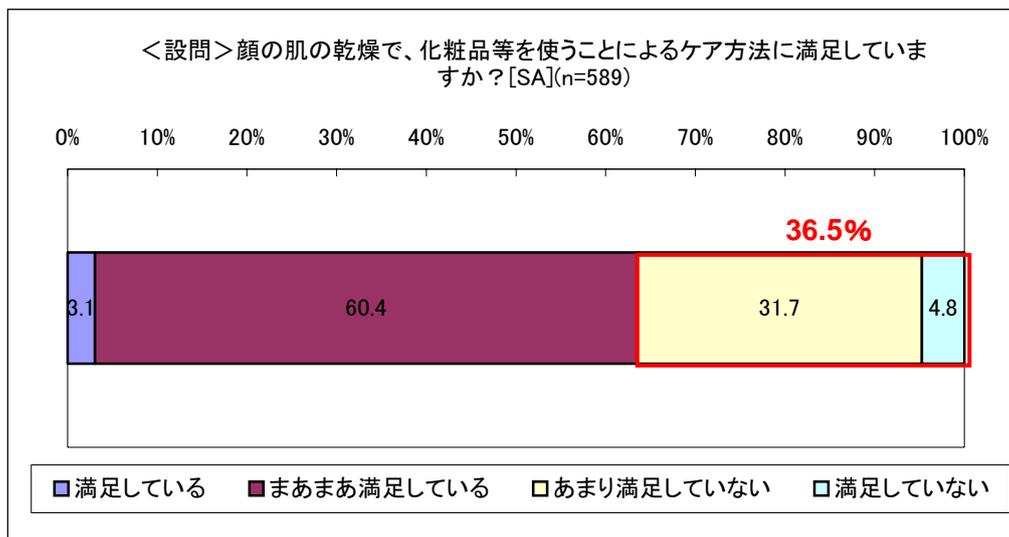
③化粧品による乾燥対策に満足していない女性は 36.5%

⇒<基礎データ③④⑤参照>

その理由の第1位は「一時的な対症療法で効果が持続しないから」

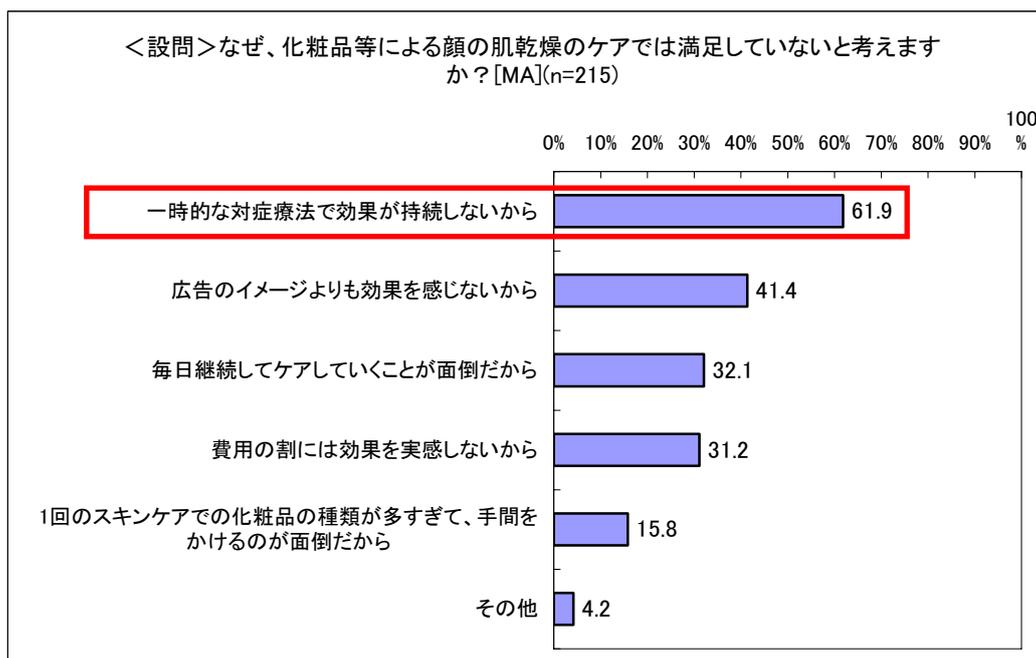
顔の肌の乾燥が気になる女性（662人）のうち、化粧品で乾燥ケアする人（589人）に対して、「化粧品によるケア方法に満足していますか？」と質問しました。その結果、「あまり満足していない」31.7%、「満足していない」4.8%となり、化粧品による乾燥ケアに満足していない人は全体の36.5%いることがわかりました。（図C参照）

[図C]

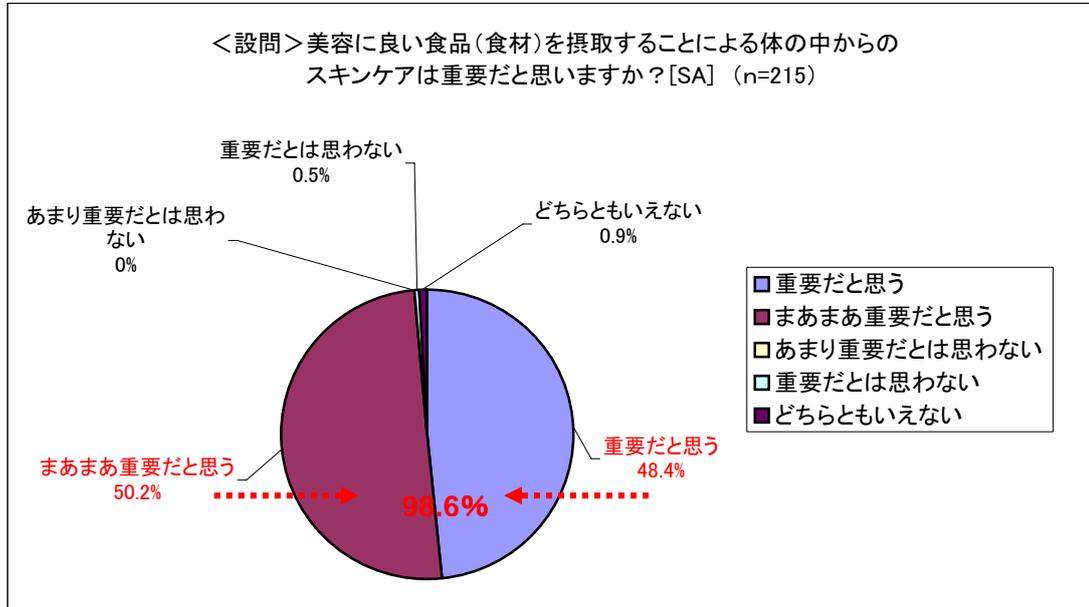


また化粧品でのケアでは、「満足していない」36.5%（215人）に、満足しない理由を質問したところ（複数回答）、「一時的な対症療法で効果が持続しないから」61.9%（133人）が第1位となり（図D参照）、そのうち98.6%（212人）は、「美容によい食品（食材）を摂取することによる体の中からのスキンケアは重要」と考えていることがわかりました（図E参照）。

[図D]



[図E]



④乾燥の原因は「“加齢” だと思う」が 56.8%、

⇒＜基礎データ⑥参照＞

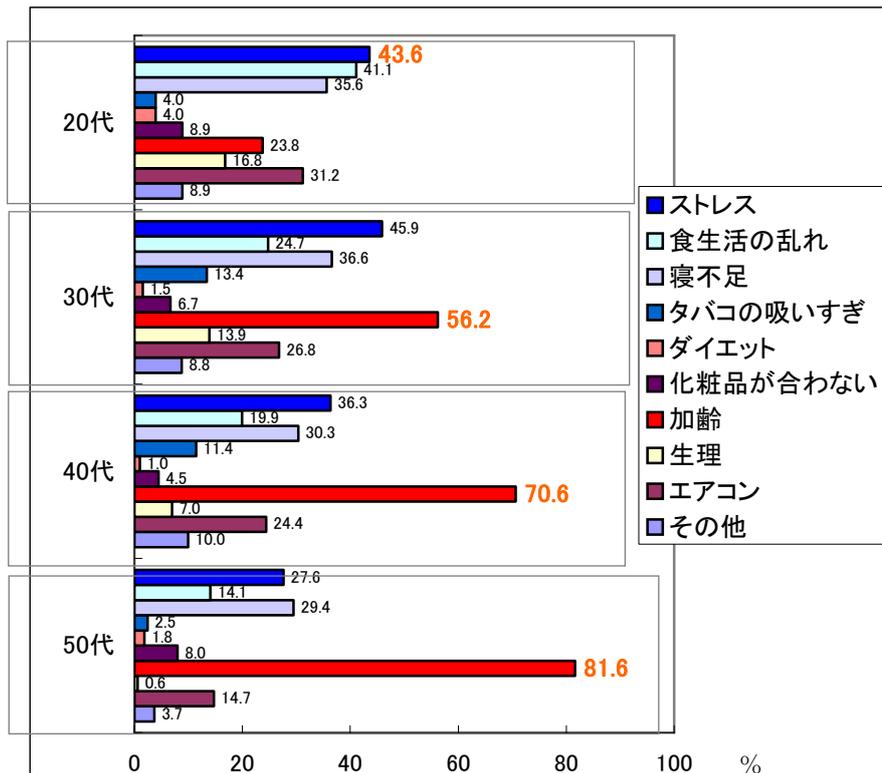
しかし、20代は“ストレス”が上位、“老い”は30代から

乾燥の原因として、冬の乾いた気候（空気）がまず挙げられますが、この気候（空気）による外的要因以外にも、乾燥の原因として考えられるものが多いようです。顔や体の乾燥が気になる女性 760 人に「乾燥の原因は何だと思いますか？」と質問したところ（複数回答）、全体で最も多いのは「加齢」56.8%でした。

また、年齢別に見ると、20歳代の第1位は「ストレス」が43.6%、30歳代から50歳代までは「加齢」がトップでした（図F参照）。このことから、20歳代の若いころは、仕事や生活でのストレスが乾燥の原因と考えられており、30歳代以降は“老い”が原因と感じていることがわかりました。

[図F]

＜設問＞顔の肌、腕・ひじ・手、足・スネ・かかと、上半身（胴体）が乾燥した原因は何だと思いますか？[MA](n=760)

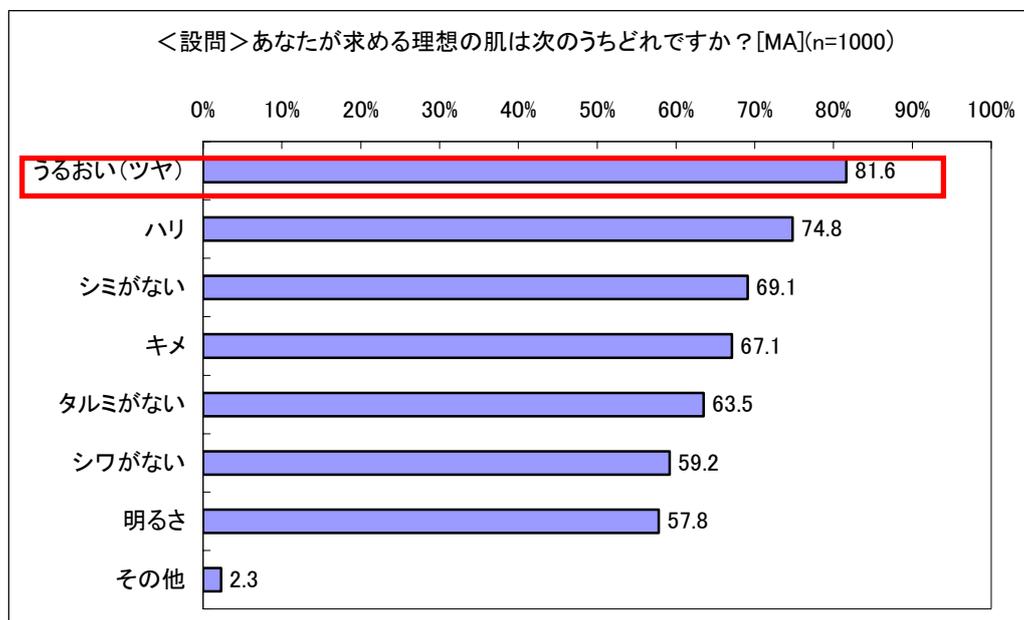


⑤女性がもっとも理想とする肌は、“うるおい肌”が81.6%でトップ

⇒＜基礎データ⑦参照＞

女性が理想としている肌について調べようと、「あなたが求める理想の肌は次のうちどれですか？」（複数回答）と尋ねたところ、「うるおい」が81.6%でトップでした。“ハリ”や“キメ”より“ツヤ”（うるおい肌）をもっとも強く求めていることが分かりました（図G参照）。

[図G]



銀座スキンクリニック 坪内利江子先生のコメント

肌の乾燥は、年齢、生活習慣、ストレス、睡眠、運動量、季節や環境によって微妙に変化していきます。忙しい現代女性は特に肌の乾燥に悩まされている方が多いようです。

乾燥はシワやタルミの原因となるばかりではなく、湿疹やひび割れなどさまざまな深刻な症状をもたらします。乾燥のない健康な肌を保つためには、肌のバリア機能がきちんと働く必要があります。このバリア機能は、肌の最表層の角質にあるセラミド（細胞間脂質）や NMF（天然保湿因子）などに関係していますが、それらは簡単に測定することはできません。そこで登場するのが、比較的簡単に測定できる“角質の水分量”です。肌の水分は、蒸散量が増えると乾燥状態になります。そうすると、炎症が誘発され、神経線維の延長がおき、外からの刺激に肌が敏感になって荒れやすくなります。

乾燥対策には、以前より化粧品などによる外側からのケアが知られていますが、香りやテクスチャを自由に楽しみたい化粧品選びが限定されてしまいます。そこで、体の内側からのケアという手段が期待されます。また、外側からのアプローチは、皮膚の土台である真皮までは到達しません。したがって、真皮のうるおいのためには、経口摂取による体の内側からのケアが必要です。表皮、真皮の両方の水分量アップのためには、忙しい生活の中でも、毎日の食事にサプリメントや美容食品などを加えるというちょっとした工夫で大きな効果が期待できるのです。美容食品の中でも、体の中から肌の乾燥に潤いを与えるN-アセチルグルコサミンは、ヒアルロン酸よりも肌への還元率が高いので、肌の乾燥が気になる方にとっては注目すべき成分だと思います。